

2024年度上半期 地域経済景況調査報告書

大東商工会議所
大 東 市

○目 的

地域経済の景況を把握するため、市内事業所を対象に景況調査を半期毎に年2回実施する。
調査概要は以下の通り。

- 方 法 往復はがきによるアンケート方式、窓口等でも依頼・回収
- 調査期間 2024年4月～2024年9月
- 対 象 市内の1496事業所
- 回答状況 回答事業所 278社（2024年11月1日現在）

（業種）

非製造業	製造業	104社	37.4%
	建設業	40社	14.4%
	卸売業	24社	8.6%
	小売業	35社	12.6%
	飲食業	12社	4.3%
	サービス業	63社	22.7%
	非製造業計	174社	62.6%
合 計	278社	100.0%	

（従業員規模）

0～5人	163社	58.6%
6～20人	69社	24.8%
21～50人	19社	6.8%
51～100人	12社	4.3%
101人以上	15社	5.4%
合計	278社	100.0%

※四捨五入により合計が100.0%にならない場合がある

○調査データ

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とは、Diffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について「増加」「好転」した等とする企業割合から「減少」「悪化」した等とする企業割合を差し引いた数値である。即ち、プラスは上昇・増加・黒字基調等の企業割合が上回り、マイナスは下降・減少・赤字基調等の企業割合が上回ったことを示す。

【全国の景況】

景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。

- ・個人消費は、一部に足踏みが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・設備投資は、持ち直しの動きがみられる。・輸出は、おおむね横ばいとなっている。
- ・生産は、このところ横ばいとなっている。
- ・企業収益は、総じてみれば改善している。企業の業況判断は、改善している。
- ・雇用情勢は、改善の動きがみられる。・消費者物価は、緩やかに上昇している。

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

* 内閣府発表 月例経済報告(令和6年10月)による

【大東市の概要】

前回調査(2023年度下半期)から、製造業・非製造業ともに多くの項目で横ばい又はやや下落の傾向がみられた。特に今期の飲食業は「営業利益」「資金繰り」「来期の業況見通し」などでマイナスの傾向が顕著であり、厳しい経営環境が窺える。また今期も、卸売業、建設業、製造業を中心に人手不足の問題が改善されず、引き続き厳しい資金繰りなどと共に今後も注視する必要がある。

	出荷・売上高	製・商品単価	原材料価格	営業利益	採算状況	資金繰り	雇用状況	設備投資	来期の業況見通し
製造業									
非製造業									

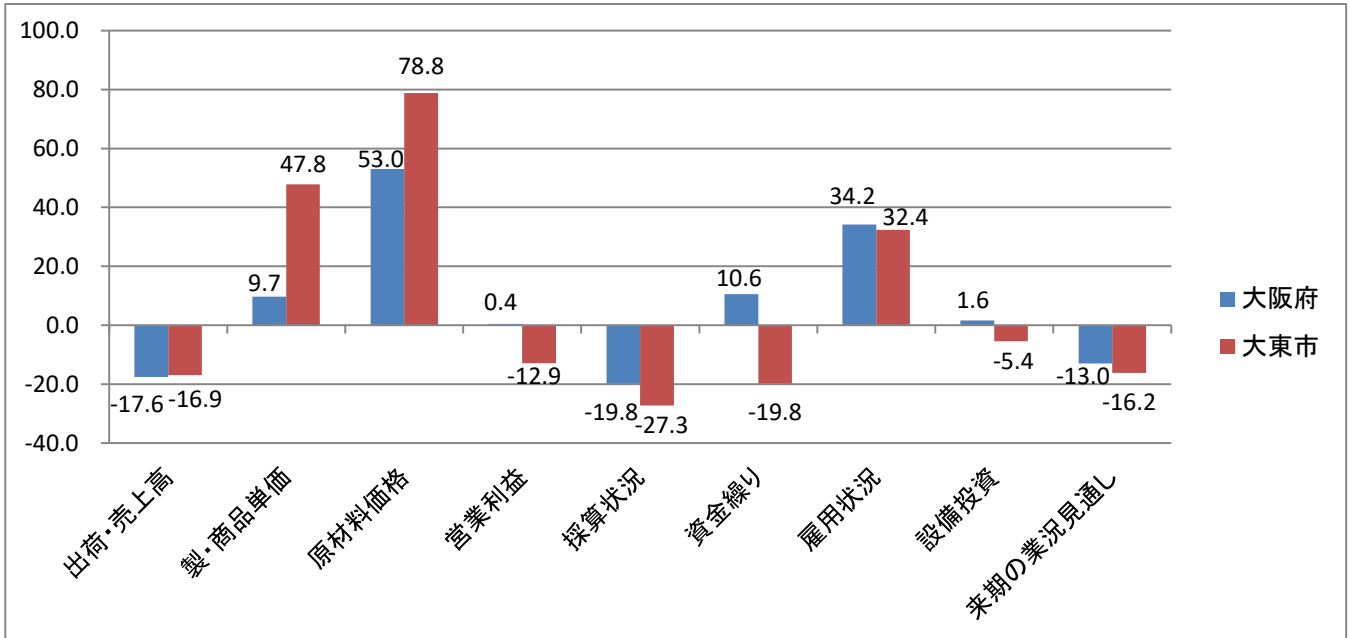
DI値: … 5以上 … -5～5未満 … -15～-5未満 … -25～-15未満 … -25未満

* 原材料価格及び雇用状況に関しては、数値を反転して評価する。

【大東市内企業の景況及び大阪府との比較】

DIのまとめ（大阪府との比較）

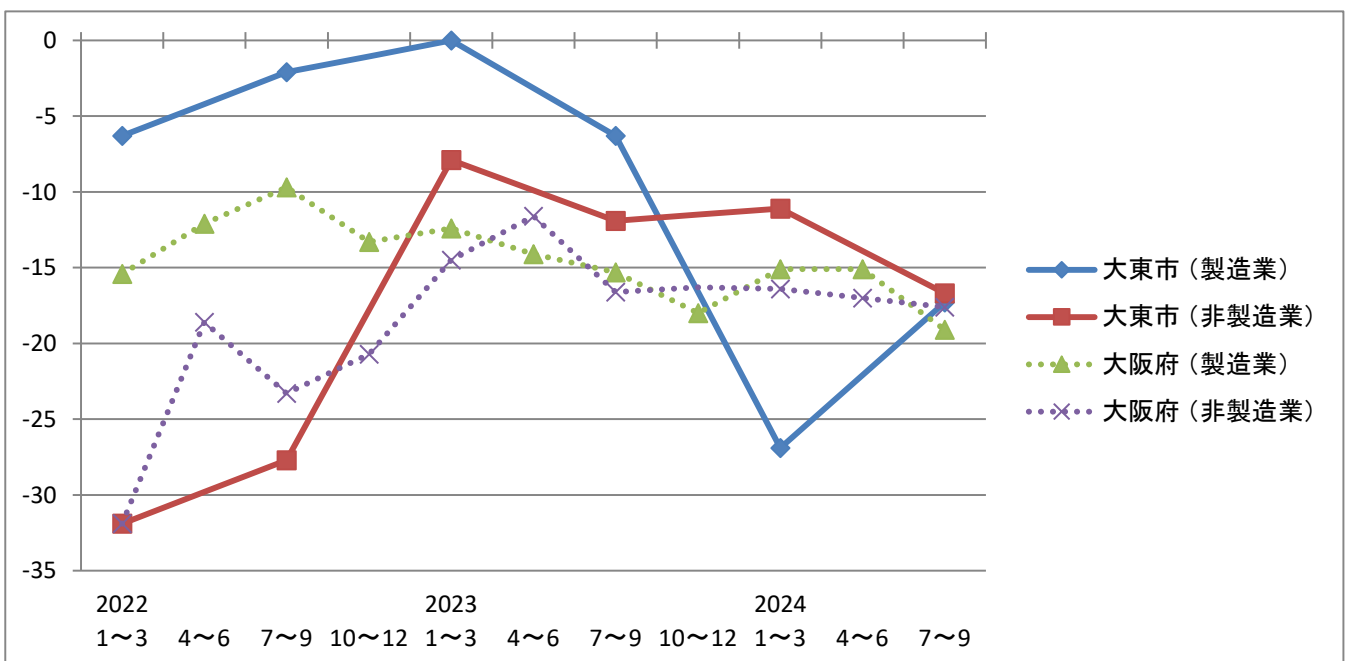
今期の地域経済景況調査において、大阪府の指標との比較では大東市内企業は「製・商品単価」の項目が上回ったものの、「原材料価格」も大阪府の指標を上回った。また、今期も「営業利益」「採算状況」のほか、「資金繰り」や「設備投資」「来期の業況見通し」の項目で大阪府の指標を下回る結果となった。



* 原材料価格及び雇用状況に関しては、数値を反転して評価する。

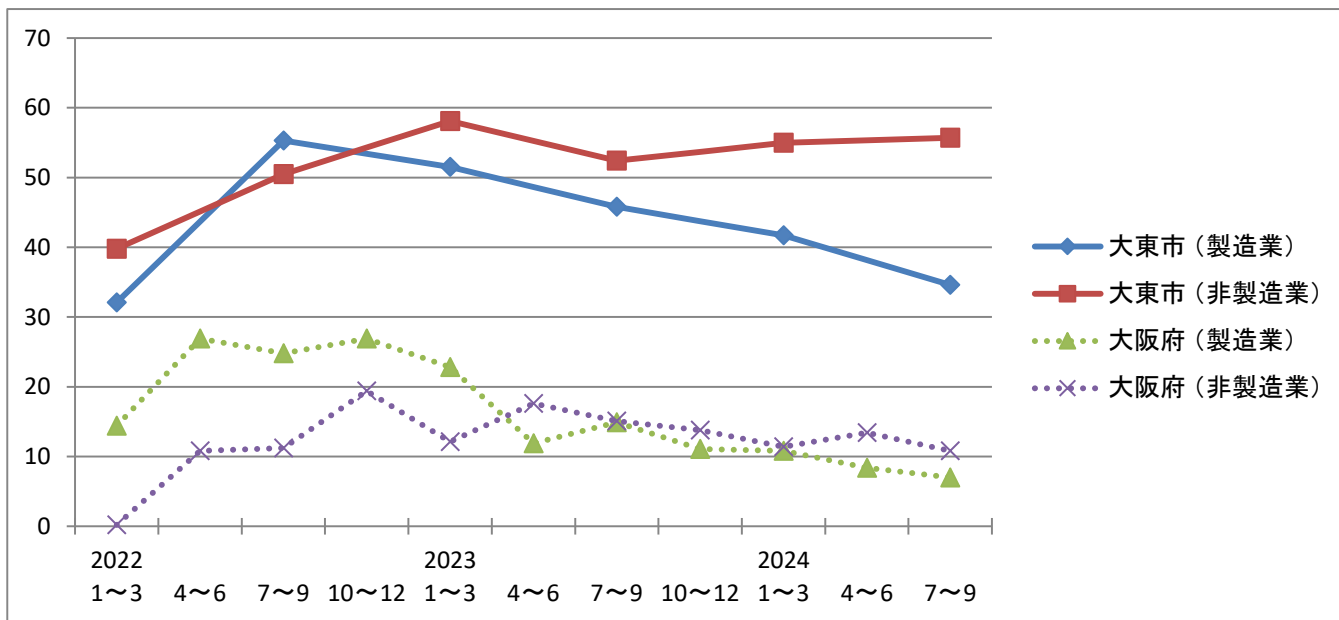
○出荷・売上高

出荷・売上高DI(「増加」-「減少」企業割合)⇒ 製造業:-17.3% 非製造業:-16.7%
 前回調査結果(製造業:-26.9%、非製造業:-11.1%)から、製造業は改善、非製造業はやや悪化の傾向がみられた。直近の大阪府データ(製造業:-19.1%、非製造業:-17.6%)との比較では、製造業は1.8ポイント、非製造業は0.9ポイントの僅差であった。大東市内では卸売業(8.3%)のみ増加傾向がみられた。



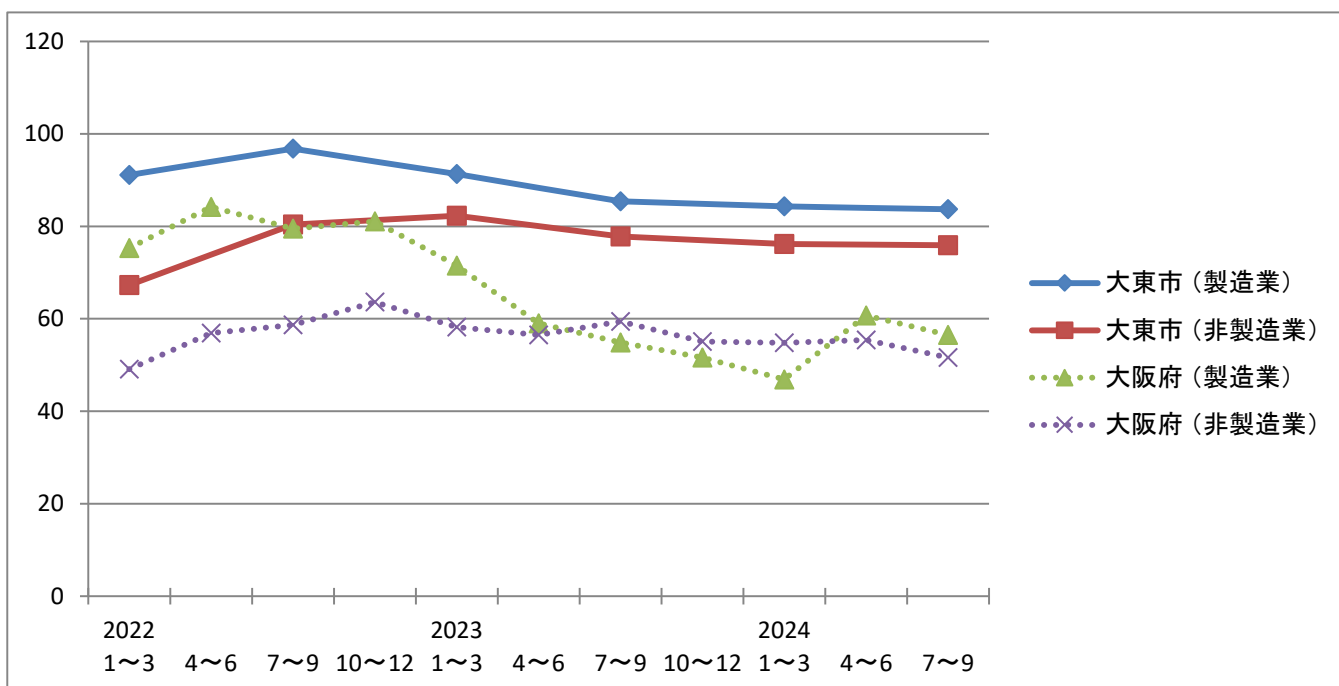
○製・商品、サービス等の単価

製・商品、サービス等の単価DI(「値上り」-「値下り」企業割合)⇒ 製造業:34.6% 非製造業:55.7%
 前回調査結果(製造業:41.7%、非製造業:55.0%)から、製造業はやや下落、非製造業は微上昇を示した。
 直近の大阪府データ(製造業:7.0%、非製造業:10.8%)との比較では、製造業・非製造業とも大きく上回った。
 大東市内においては、建設業(67.5%)と小売業(60.0%)で単価の上昇傾向が顕著にあらわれたほか、
 卸売業、飲食業、サービス業でも、単価の値下りを報告された企業は皆無であった。



○原材料・部品等の仕入価格

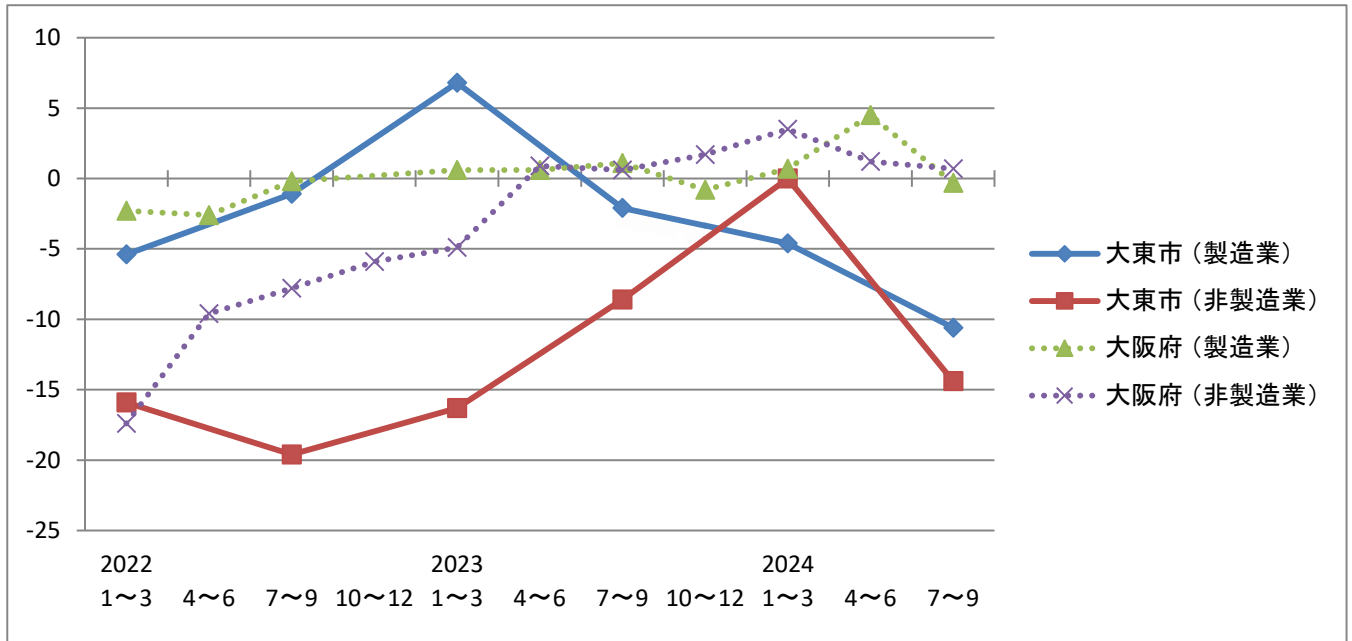
原材料・部品等の仕入価格DI(「値上り」-「値下り」企業割合)⇒ 製造業:83.7% 非製造業:75.9%
 前回調査結果(製造業:84.3%、非製造業:76.2%)から、製造業・非製造業ともにわずかな低下を示した。
 また、直近の大阪府データ(製造業:56.5%、非製造業:51.6%)との比較では、製造業は27.2ポイント、
 非製造業は24.3ポイント高位の値を示し、継続して数多くの市内企業が仕入価格の値上りを感じている
 現状が窺えた。今回も回答された飲食業では、全ての店舗で仕入価格が値上りしたとの報告であった。



○営業利益

営業利益DI(「黒字」-「赤字」企業割合)⇒ 製造業:-10.6% 非製造業:-14.4%

前回調査結果(製造業:-4.6%、非製造業:0%)から、製造業・非製造業ともに悪化を示したが、非製造業の悪化が顕著であった。また、直近の大阪府データ(製造業:-0.3%、非製造業:0.7%)との比較では製造業は10.3ポイント、非製造業は15.1ポイントそれぞれ下回った。大東市内においては建設業(-5.0%)の営業利益DIが最も良好で、飲食業(-58.3%)の営業利益DIが最も厳しい結果となった。

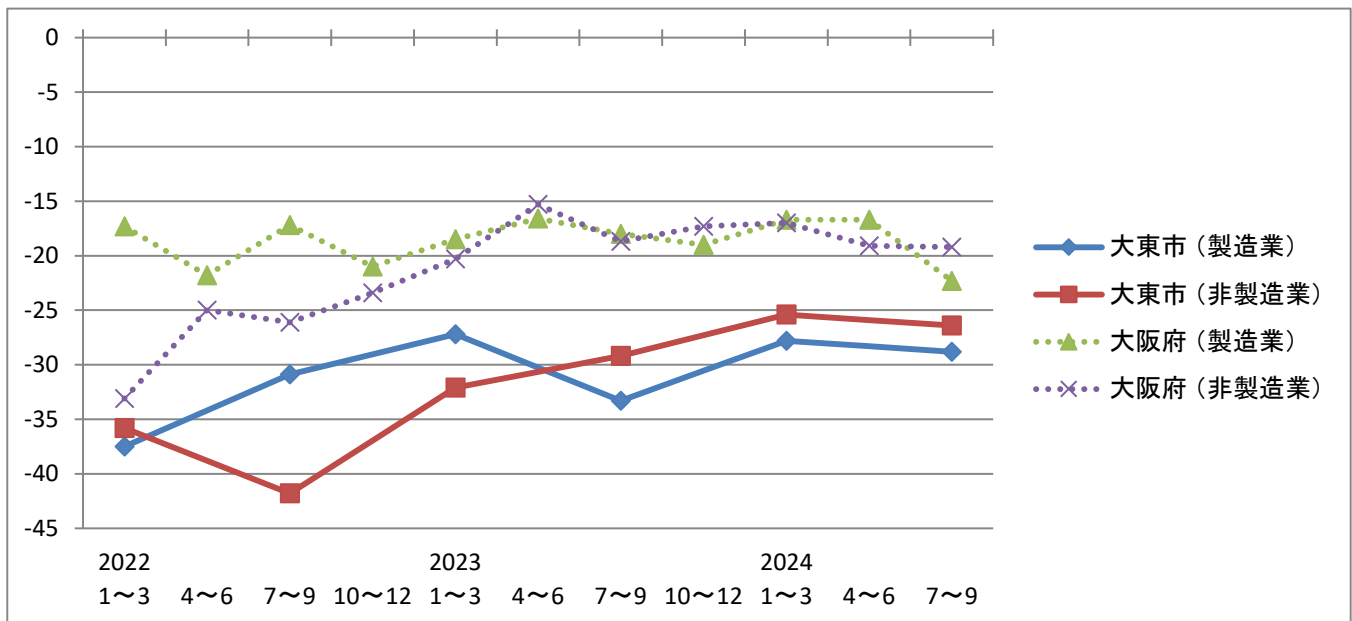


○採算状況

採算状況DI(「良くなった」-「悪くなった」企業割合)⇒ 製造業:-28.8% 非製造業:-26.4%

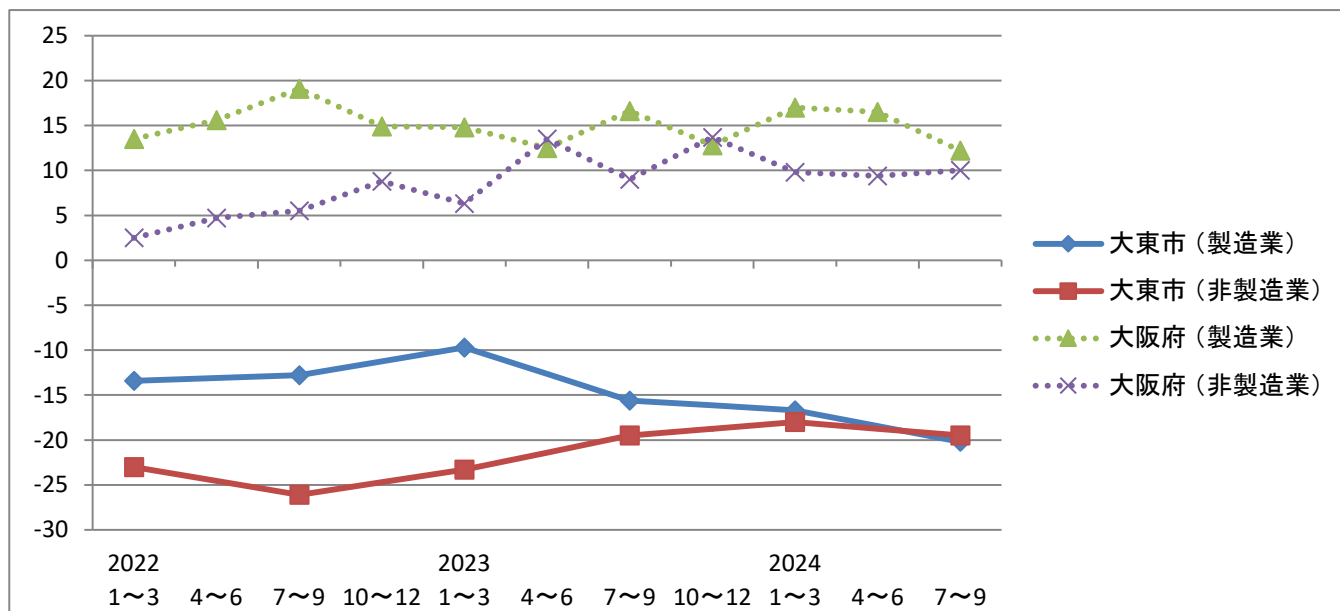
前回調査結果(製造業:-27.8%、非製造業:-25.4%)から、製造業・非製造業ともにわずかに悪化した。また、直近の大阪府データ(製造業:-22.3%、非製造業:-19.2%)との比較では、製造業は6.5ポイント、非製造業は7.2ポイントそれぞれ下回った。

採算状況DIでも、大東市内の飲食業(-66.7%)の悪化が目立った。



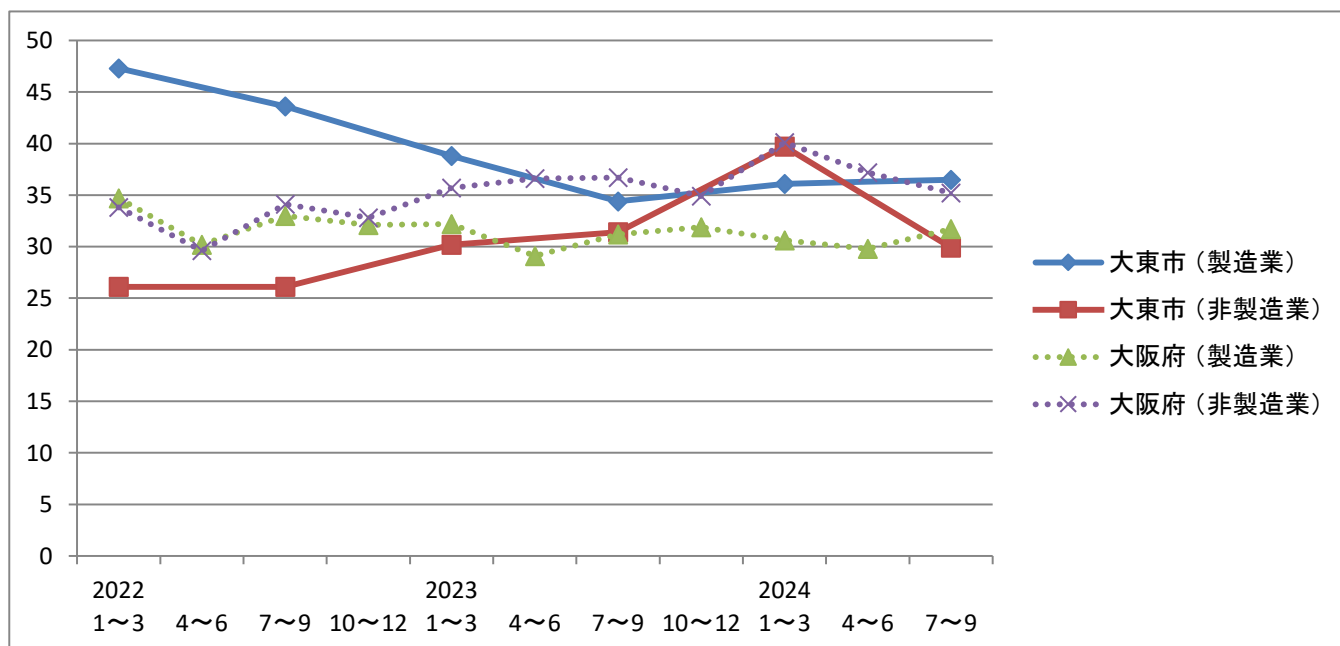
○資金繰り

資金繰りDI(「良くなった」-「悪くなった」企業割合)⇒ 製造業:-20.2% 非製造業:-19.5%
 前回調査結果(製造業:-16.7%、非製造業:-18.0%)から、製造業・非製造業ともにやや悪化した。
 また、直近の大阪府データ(製造業:12.2%、非製造業:10.0%)との比較では、製造業が32.4ポイント、
 非製造業が29.5ポイントそれぞれ下回った。大東市内の業種別では、今期は飲食業(-58.3%)の資金繰り
 DI悪化が特に顕著であるほか、大阪府の調査では継続してDIプラスの領域、大東市の数値はDIマイナスの
 領域で推移し続けている。



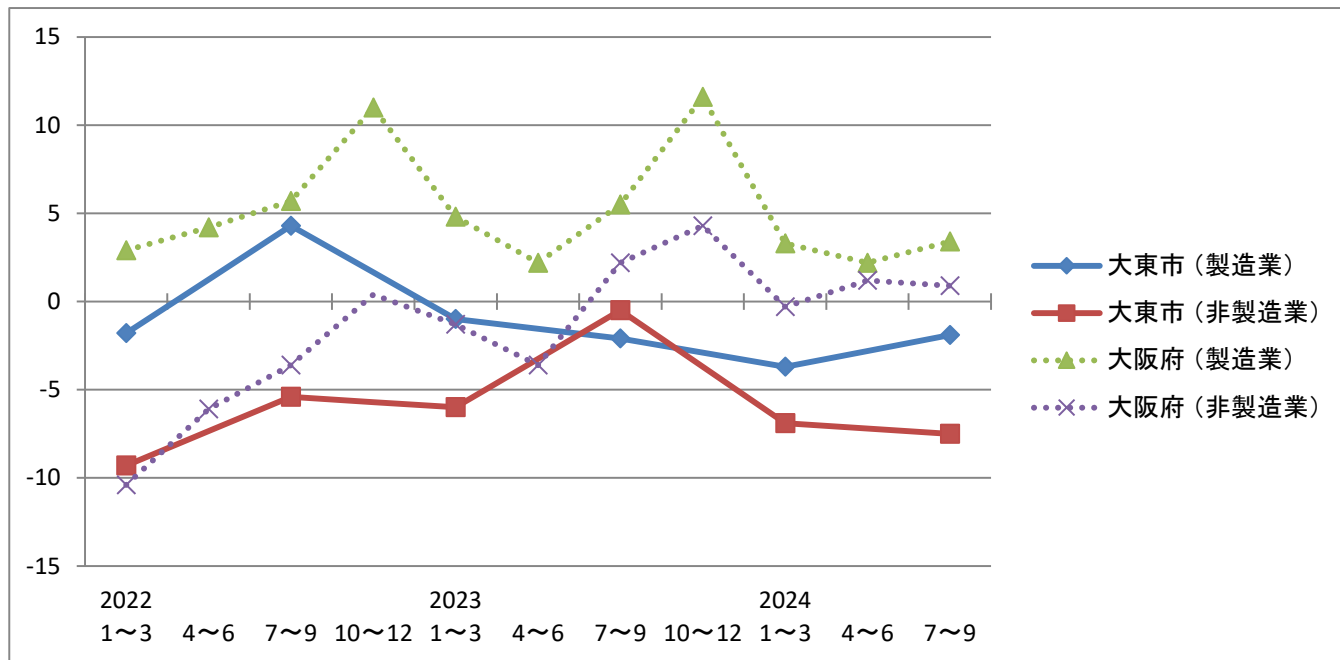
○雇用状況(雇用不足感)

雇用状況DI(「不足」-「過剰」企業割合)⇒ 製造業:36.5% 非製造業:29.9%
 前回調査結果(製造業:36.1%、非製造業:39.7%)から、製造業は微増、非製造業の雇用不足感は一服。
 今回非製造業のDIは下落傾向を示した。また直近の大阪府データ(製造業:31.7%、非製造業:35.2%)との
 比較では、製造業は4.8ポイント上回り、非製造業では5.3ポイント下回った。大東市内では、卸売業(45.8%)、
 建設業(37.5%)、製造業(36.5%)において、引き続き人手不足の問題が改善されない現状が窺える。



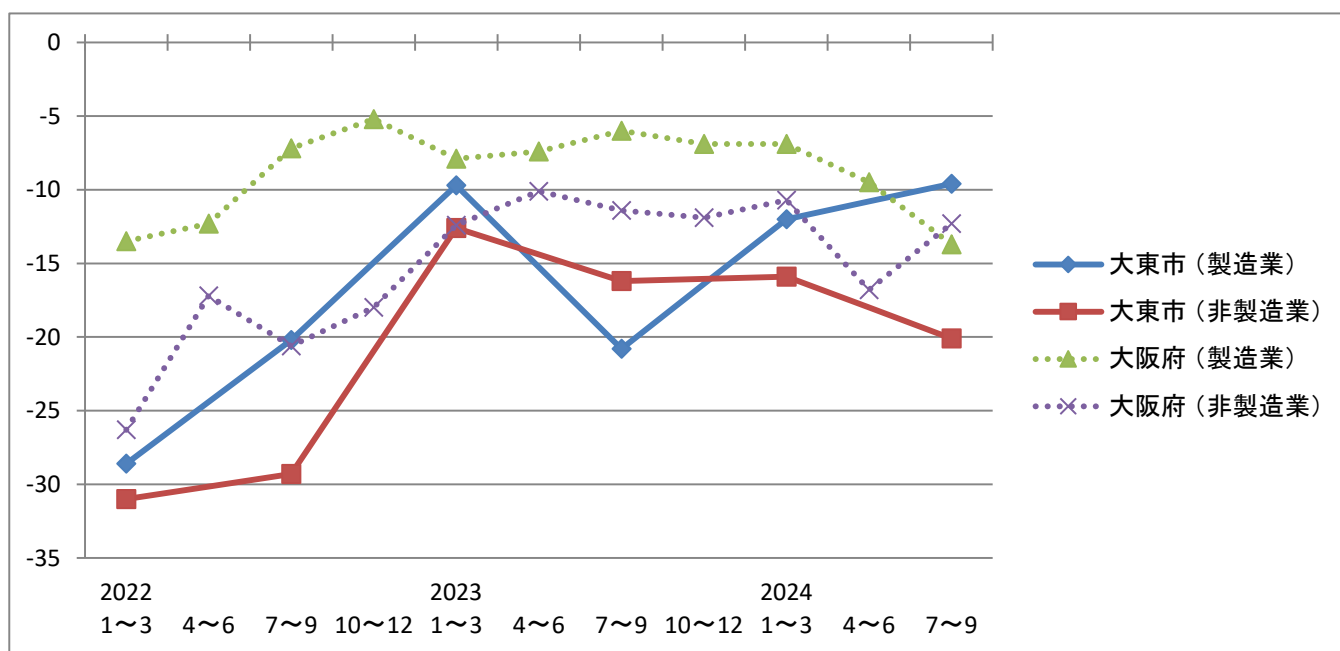
○設備投資

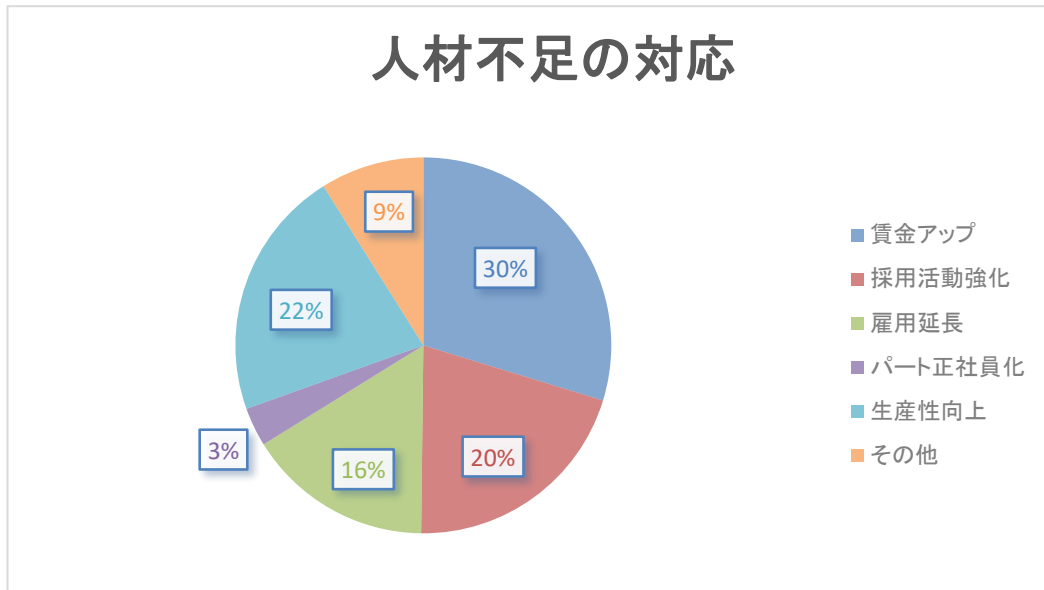
設備投資DI(「増加した」-「減少した」企業割合)⇒ 製造業:-1.9% 非製造業:-7.5%
 前回調査結果(製造業:-3.7%、非製造業:-6.9%)から、製造業はやや増加、非製造業はやや減少を示した。
 また、直近の大阪府データ(製造業:3.4%、非製造業:0.9%)との比較では、製造業は5.3ポイント、非製造業は8.4ポイントそれぞれ下回った。大東市内では、今回サービス業(7.9%)においてのみ増加がみられた。



○来期の業況見通し

来期の業況見通しDI(「良くなる」-「悪くなる」企業割合)⇒ 製造業:-9.6% 非製造業:-20.1%
 前回調査結果(製造業:-12.0%、非製造業:-15.9%)から製造業はやや良化、非製造業は悪化の見通しが示された。また、直近の大阪府データ(製造業:-13.7%、非製造業:-12.3%)との比較では、製造業は4.1ポイント上回り、非製造業は7.8ポイント下回った。市内で来期の業況見通しDIが最も良好だった業種はサービス業(-7.9%)。他方、飲食業(-41.7%)における来期の業況見通しの厳しさが特に顕著であった。

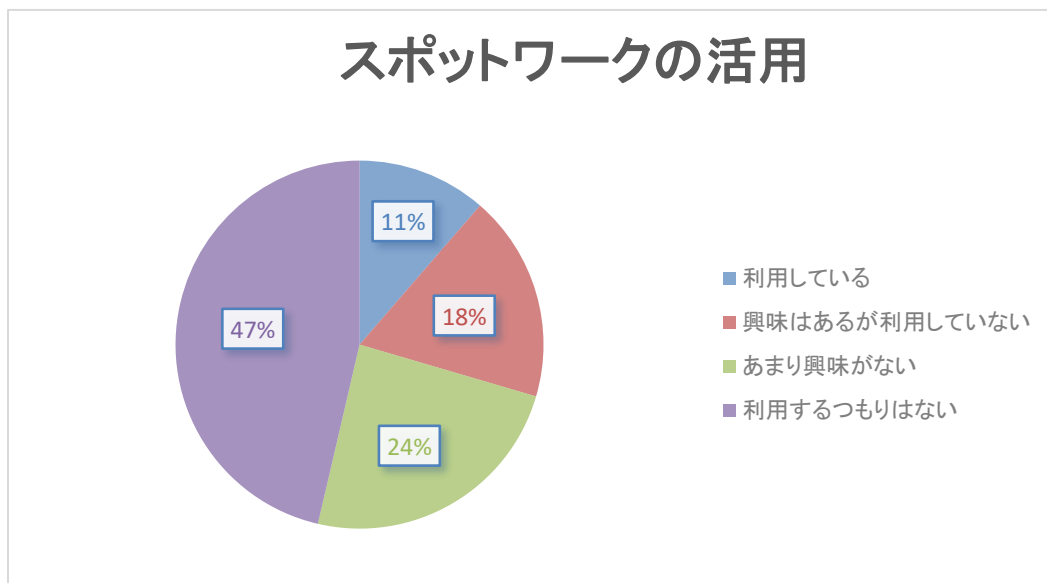




○ 人材不足の対応

(※無回答は対象外とした)

「賃金アップ」(30%)、「生産性向上」(22%)、「採用活動強化」(20%)、「雇用延長」(16%)、「その他」(9%)、「パート正社員化」(3%)の順で、回答が多かった。



○ スポットワークの活用

(※無回答は対象外とした)

「利用するつもりはない」(47%)、「あまり興味がない」(24%)、「興味はあるが利用していない」(18%)、「利用している」(11%)の順で、回答が多かった。

産業分類	従業員数	自由意見
表面処理鋼材製造業	C	人材が少なくなる中、賃金アップで特にスキルアップしなくても勝手に給与が上がる様な雰囲気になっている。
表面処理鋼材製造業	C	育成就労制度への変更実施がどのようになるか、気になります。
アルミニウム・同合金圧延業	B	海外販路(通販)開拓法のセミナーがあれば受講したいです。

* 従業員数 A…0～5人 B…6～20人 C…21～50人 D…51～100人 E…101人以上

産業分類	従業員数	自由意見
電気照明器具製造業	B	業界毎の縦のつながりを持ったシステムをまずは大東市で作ってもらいたい。
畳製造業	A	動向は不透明。
土木工事業	D	人手不足は深刻な問題。
内装工事業	A	12月からの資材値上げが不安です。
化学製品卸売業	A	支援策の情報発信を希望。コロナ禍は色んな支援があったが、今の方が苦しい事業所は多いように感じる。
男子服小売業	A	インボイスにより免税者であっても小さな会社で消費税を支払うこととなり、資金繰りが苦しい。
婦人服小売業	A	お客様の購買意欲を高める物販向けの販促を大々的に実施してください。気温上昇で秋物売れず、とても苦しいです。売上獲得策しかない。
靴小売業	A	35℃～37℃の気温ではお客様が来ない。
酒小売業	A	地域活性のために、個人商店に売上協力をお願いします。
パン小売業	A	あまりの暑さに、相次ぐ値上げと米不足。小売には厳しい季節でした。
米穀類小売業	A	新米の極端な高騰の為、米離れ客離れしないか心配です。
自動車部品小売業	B	2024年問題による物流企業へのサービスの向上が人手不足により追いついていない。また過当競争により販売価格も低下気味。
写真材料小売業	A	雇用する余裕がない。値上げによって客単価、客数が減少したように感じる。原価アップに見合う単価アップはできていない。
眼鏡小売業	A	大型店が台頭している状況ですが、まだまだ個人店も営業していけると思います。
税理士事務所	B	DX化が大変なスピードで進んでいます。この流れに乗れるところとそうでない所の差が出てきたと思います。
中華料理店	A	最近は賃金が知らない内に上がっています。いろいろな情報を早く教えて頂けると助かります。小さな店舗なのでこれ以上の賃上げは倒産を意味します。
美容業	A	給付金、補助金の制度を勉強したいので、また教えて欲しい。
美容業	A	大変な時代になった。コロナに続きお米がなくなり、はたまた台風と自然が荒れ、スピード化に世の中のめまぐるしい激動にうんざりな今日この頃。
保育所	B	スポットワーク、大いに利用したいが、国から保育事業で使用すべきでないとの指導をうけ困っている。

* 従業員数 A…0～5人 B…6～20人 C…21～50人 D…51～100人 E…101人以上